

大会参加者の共通予防対策

1. 大会参加について

- 選手、監督、コーチ、運営スタッフ等（以下、大会参加者とする）の中に感染者が確認された学校については、大会へ参加することはできない。
- 大会参加者は、大会の2週間前から検温し、体調不良や発熱等の風邪の症状がある場合は参加できないことを事前に周知する。また、大会当日大会本部へ健康状況確認用紙並びに参加同意書を提出する。

2. 移動について

- 大会参加者は、移動の際、可能な限り周囲との間隔を空けることとし、必ずマスクを着用する。併せて、可能な限り換気に努める。

3. 感染予防のための4つの基本行動

- 体調管理とその報告
- マスクの着用
- 人と人との距離を確保
- こまめな手洗い、手指消毒

大会開催中の予防対策について

1. 選手、監督、コーチの感染予防対策

(1) 集合時の感染予防対策

- 大会参加者は、必ずマスクを持参し、着用する。
- 大会参加者は、施設に出入りする際、手指消毒剤をする。
- 大会参加者は集合時に体調をチェックし、体調不良や発熱等の風邪の症状がある場合は参加しない。
- 機材倉庫は機材の出し入れ時のみとし、整備等での利用はしない。

(2) 大会受付時の感染予防対策

- 受付等において、参加者同士が十分な距離を確保して並び、受付する。
- 選手個人での受付はなるべくせず、各校顧問が代表して行う。
- 受付時に、各校顧問は健康状況確認表を提出する。

(3) 待機中の予防対策

- 参加者は必ずマスクを持参し、スポーツを行っていない待機中や会話をする際はマスクを着用する。天候条件により、息苦しさを感じるようであれば、マスクを無理に着用しない。
- 参加者は、個人間の距離（できるかぎり2m以上）を確保して待機する。
- 大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと。
- ウォーミングアップ及び、試合中のみマスクを外すことができる。
- 試合の前後だけでなく試合中にも、こまめな手洗い又は、消毒を行う。
- タオルの共用はしないこと。

- 選手は指定された待機場所を利用し、個人間の距離を確保して過ごす。
- 飲食は指定の場所以外で行わず、対面を避け、周囲の人となるべく距離をとって、会話をなるべくせず、速やかに食事をする。
- トイレ使用時はふたを閉めて汚物を流すようにし、手洗いは石けんを用い 30 秒以上しっかり手指を洗浄すること。

(4) 試合中の感染予防対策

- 監督、コーチ、選手、運営スタッフは必ずマスクを着用する。
- 選手は、ウォーミングアップ及び、試合中のみマスクを外すことができる。
- 試合の前後だけでなく試合中にも、こまめな手洗い又は、消毒を行う。
- 運動時、またそうでない時も周囲の人と距離を空けること。
- 試合中、選手どうしは前走者の人の呼気の影響を避けるよう、位置取りに注意する。
- 試合中、選手は唾や痰をはくことを極力しない。
- 試合中、選手、監督、コーチは大きな掛け声、応援等をしないこと。

(5) 試合後の感染予防対策

- 開閉会式・表彰式を実施する場合は密集とならないよう、参加人数を制限し速やかに執り行う。
- 参加者等に感染者が発生した場合には、参加者等に連絡を取り、症状の確認がとれる体制を確保する。また、参加した者は保健所などの聞き取りに協力する。
- ミーティングなどにおいて、長時間密にならないように配慮する。

2. 観客に対する感染予防対策

観客は保護者のみとする。保護者は受付で検温ののち、受付名簿へ必要事項を記入する。。
なお、以下の内容について各校顧問より事前に周知する。

(1) 受付時の感染予防対策

- 大会参加者は、必ずマスクを持参し、着用する。
- 大会当日の朝、必ず検温し、発熱等の風邪の症状がある者は、施設利用できない。

(2) 試合観戦時における予防対策

- 観客は必ずマスクを着用し、周囲との間隔を十分空けるとともに、集団となつての応援、ならびに発声による応援は行わない。
- 大会当日の朝、必ず検温し、発熱等の風邪の症状がある者は、来場できない。
- バック側スタンドで飲食をする際は、対面を避け、周囲の人となるべく距離をとって、会話を控えめにして速やかに食事する。また、水分補給は個人のものを用意し、まわし飲みはしない。
- タオルは個人で準備し、共用しない。
- 上記の対応を守れない観客は退場いただく。
- 参加者等に感染者が発生した場合には、参加者等に連絡を取り、症状の確認がとれる体制を確保する。また、参加した者は保健所などの聞き取りに協力する。